武田 正樹 議員

清流クラブ

米価の現状と今後の課題について尋ねる

問

(1) 26年産の「あきたこまち」、「コシヒカリ」の生産者販売価格は幾らか。

(2) 過去3年間、23、24、25年産の「あきたこまち」、「コシヒカリ」の生産者販売価格は幾らだったのか。

また、その販売価格には精算金が加算されるが、3年間平均で幾ら加算されているのか。

その精算金を考慮した26年産の生産者販売価格は過去3年間と比較してどうなのか。

(3) 26年産の「あきたこまち」、「コシヒカリ」の品質について、1等米の比率、10a(アール)当たりの収量はどれぐらいだったのか。

(4) 26年産米が低米価になった要因をどう考えるか。

(5) 国の施策の経営所得安定対策の中で収入減少影響緩和対策と言われる「ナラシ対策」及び米価変動補填交付金について、26年産米についてはどうなるのか。

また、27年産からは本格的にナラシ対策に移行するが、26年産との変更点について尋ねる。

(6) 27年産以降の米価の先行きについて、市はどう考えているか。

今後も米価の上昇は厳しい 市補助事業を継続していく

答 農政課長

(1) 農協の仮渡し価格で、「あきたこまち」が1俵(60キロ)当たり9千300円、「コシヒカリ」が、1俵当たり9千100円。

(2) 同じく農協の仮渡し価格で、25年産「あきたこまち」1万3千200円、「コシヒカリ」1万2千400円。24年産「あきたこまち」1万5千円、「コシヒカリ」1万4千400円。23年産「あきたこまち」1万3千100円、「コシヒカリ」1万2千100円。

精算金の平均額は25年産が未確定のため、23、24年の平均で、「あきたこまち」783円、「コシヒカリ」が1千138円となる。

26年産米価は「あきたこまち」、「コシヒカリ」とも過去3年間の米価より下落している。

(3) 26年産「あきたこまち」は、全て1等米で、収量は、10a当たり約8俵。

しかし、「コシヒカリ」は、初出荷時期の米は、ほぼ1等米だったが、その後のものは、品質が平年よりも劣ると予想されている。また、収量も10a当たり8俵を下回っている。

(4) 25年産米の在庫が過剰になっている関係もあり、26年産の米価が下落したと考えられる。

(5) ナラシ対策について、26年産は、対象となる農業者が「認定農業者」、または「集落営農」で一定の経営規模を有することが要件となるが、27年産からのナラシ対策への移行を円滑に進めるために、要件に該当しない方で26年産米の直接支払交付金の交付対象者のうち、ナラシ対策に加入していない方については、「ナラシ移行のための円滑化対策」が26年産に限り実施される。

27年産からのナラシ対策については、対象が「認定農業者、集落営農、認定新規就農者」という3者に限定される。

米価変動補填交付金は、26年産から廃止になった。

(6) 主食米の消費が落ち込んでいる現状と在庫過多により、27年産以降の米価が上向くことは難しいと考えている。

答 市長

(6) (農政課長の答弁のとおり)今後の米価の上昇は難しいと考える。

しかし、このような状況の中で、市単独で実施する「生産調整推進対策事業費補助金」で、生産に対する調整金を10a当たり3千円、また、「生産調整推進対策事業集団化補助金」で、麦・大豆に対する転作を推進するための奨励金7千円を補助している。

米価の上昇が見込めない現在の状況では、この補助事業を継続していきたいと考える。